

議会広報研修に参加して

令和4年7月31日
東員町議会議員 大崎昭一

開催：令和4年7月29日10時～16時

会場：三重県労働文化センター大会議室

主催：三重県市町総合事務組合

テーマ：議会広報研修

講師：芳野政明 先生（広報・編集コンサルタント）

参加自治体：東員町、木曽岬町、松阪市、名張市、玉城町、亀山市、伊賀市、志摩市、津市、四日市市、いなべ市、川越町の12議会

参加者：37名

<概要>

新型コロナウイルス感染症第7波が猛威を振るう中での開催で、感染予防対策を講じての研修会であった。

1、前半は、「住民に読まれる、伝わる 議会の存在感高める 議会広報の基本と編集」と題して、議会報発行の意義と目的を、パワーポイントを駆使して、わかりやすく話していただいた。

議会活動は多岐にわたる中で、広報を基幹活動と位置づけること、地方議会は住民参加が前提の機関であることの大切さを強調された。

そのうえで、地方議会の本来の課題として、

- ① 政治争点の集約・公開
- ② 政策情報の集約・公開
- ③ 政治家の訓練・選別
- ④ 長・行政機構の監視
- ⑤ 政策の立案・改定・評価

（立法・提言並びに予算・決算）

以上の5項を「情報・意見の集約機構としての議会の位置」として、中でも、①～④の意味での、住民のヒロバであると、強調された。

2、後半は、11議会が事前提出していた、「広報誌」を先生が各誌をそれぞれ数時間以上

かけて、事前診断された所見を述べられた。

それぞれの、発展させる良い点、改良すべき点等々を、各誌、10分～20分かけて講評をいただいた。

お互いの議会広報の編集にあつてのステップアップさせるうえで、参考になることが多かった。

<所感>

講師の芳野政明先生は、一般社団法人埼玉県コミュニケーションセンター理事長として活躍され、2012年からは、全国町村議会広報コンクール審査員の重責を担われている。また、月間『地方議会人』に「議会広報クリニック」の記事を隔月ごとに掲載されている。

11自治会の広報誌を実際に手に取りページをめくり、先生の豊富な経験に裏打ちされた、講評を聴講できたこの度の研修は、大変有意義であった。

議会広報誌発行の意義・目的としての、見える化、説明責任、情報共有、機能発揮、政策議論、信頼醸成、認知評価、というキーワードを心に刻みました。

また、「どんなに素晴らしい議会活動も、それを住民が知らなければ、評価はなきに等しい。議会の活動が住民に伝わり、理解されるまでが議会の責任。」と熱く語られた先生の言葉を大切にして、東員町議会広聴広報委員としての役割を遂行していこうと思いました。

以上